

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4071501169		
法人名	医療法人 親仁会		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地 (電話番号)	大牟田市西浜田町15-3		(電話) 0944-56-3733
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会		
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F		
訪問調査日	平成 20年 3月 8日		

【情報提供票より】(平成 20年 2月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 1人, 非常勤 7人, 常勤換算	7.8人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独		新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	2 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年2月20日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	1 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.2 歳	最低 71 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中友診療所・米の山病院・米の山歯科診療所・みさき病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営母体の法人が友の会方式の診療所であり、その2階の病棟部分を改築したホームである。住宅街の中にあり、利用者のほとんどがその地域で暮らしていた方々である。学生のボランティアの受け入れも多く地域との交流も活発である。ホーム内はエレベーターを降りてベランダへと続くホールは十分な広さがあり日当たりも良くプレイルームとして活用されている。廊下には昔懐かしい足踏みミシンや市松人形・屏風等を効果的に配置され季節ごとの飾りや花々がいたる所に生けられている。利用者も落ち着いた空間の中で穏やかな時間を過ごされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	これまで3度外部評価を受けており、その都度職員全体で改善点についての話し合いがなされている。特に今回は理念の共有ができていないとの要改善を受け、利用者と一緒に理念をわかりやすく大きな貼り絵にしてエレベーターの出入りに掲げるようにした。これも季節ごとに図柄を換え作り直す事で職員に理念を強く意識付けできるよう考えられている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、管理者が項目すべてに目を通して記載した文書に各職員から加筆修正をしてもらった。これは各職員からの意見を取り入れることでホーム内の方針の統一化に繋げていきたいとの思いからである。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は1回/2月老人会や民生員、市からの参加により開催している。会議の内容を充実させる為にもホーム便りや行事ごとの写真等でホーム内の報告をし、困難事例や問題点等を議題に挙げる事で行政の方から助言を受けたり、民生委員からは地域のいきいきクラブへの参加を提案されたりと地域との交流の機会を拡げる場となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	運営推進会議に家族代表も交代で参加されるが、その場で意見や苦情を言われることはない。面会時に直接職員に相談をされたり、管理者を窓口として意見等は出ており、その際は随時職員間で話し合いを持ち対応している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日頃から外出の時間を多く作っており、近所の方も馴染みである。以前、ホーム外に1人で外出された方があったが、その時には近所の方が気づかれ職員に連絡していただいた事がある。月一回、民生委員の紹介を受け地域の「いきいきクラブ」にはできるだけ多くの利用者と一緒に出かけ同年代の方との交流を持つようにしている。高校生ボランティアや小学生の来訪もある。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域で普通に暮らすことをもっと深めていきたい」という事を理念にしている。全職員と話し合いの中で、地域との交流を持ちながら利用者が安心して生活できるためにはどうしたらよいかということを念頭に置き理念に基づいたサービスができるよう取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員にとって理念やホームの方向性が管理者からの一方的な押し付けとならないように、評価会議や日常の話し合いの中で確認しあい、理念の実践に向けて統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣近所の方とは散歩等の外出時に日常的に挨拶を交わし、昔からの友人・知人も気軽に訪問されている。また、高校生や小学生のボランティアの受け入れだけでなく、民生委員主催の「いきいきクラブ」にも積極的に参加し、老人会や民生委員との情報交換をする中で地域活動や交流がより一層盛んになるように努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を職員に伝えた上で、管理者が記載した自己評価表を全職員に回覧し加筆修正するよう取り組んだ。外部評価の結果は、職員間で課題をきちんと見つけ改善していくことでサービスの質の向上に繋がるよう努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎月のホーム便りを基に活動報告をしている。老人会や民生委員の参加があり、地域の中に溶け込むための助言をもらったり、地域の情報交換の場となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と困難事例等の情報交換を行っている。市から依頼されて講演会で事例発表をしており、市との連携も取れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居時には管理者が利用者や家族に対してパンフレット等を利用して説明を行うが、これまで対象となる利用者もおらず、他の職員はあまり理解ができていない。	○	管理者を含め全職員が制度を理解し、必要時には支援ができるよう研修会やホーム内での勉強会を開催するなど更なる取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常の暮らしぶりは毎月のホーム便りで報告し、個別に担当者からのコメントを記載したものを配布している。金銭管理は出納帳に記入し、家族に確認していただいている。健康状態についても医療連携の看護師からの情報を伝え、個別に対応ができています。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中で意見や苦情を出してもらう機会を作っているが、それよりも、面会時等に直接職員に相談されることが多く、管理者が窓口となり意見や苦情を聞くようにしている。問題が発生した場合はその都度職員と話し合う場を設けて対応している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	自己都合での退職者はいるが、その際は利用者と一緒にお別れ会を開き家族にはホーム便りに掲載して報告している。離職後も退職後、折々にホームを訪れ利用者と談笑し交流がもたれている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたり、年齢や性別にはこだわらない。ホームの仕事に熱意があり、ホームの理念を基にして各職員が個々の能力を十分に発揮できる職場作りを目指している。職員自身も専門性を高めるために、研修会等には積極的に参加できるよう勤務調整を行っている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体で人権教育には特に力を入れており、年間研修計画の中にも組み込まれている。理念を基に利用者の人権を損なわないように職員同士がお互いに気配りをしあうようにしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修をはじめ外部の研修会に、なるべく多くの職員が参加できるように勤務調整が行われており、報告書の作成もできているが、都合により参加できなかった職員が研修内容を確実に閲覧して共有できていない面がある。	○	やむを得ず参加できなかった場合には研修報告書等を回覧し、全職員が研修内容を共有できるような取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の中にはグループホーム協議会に参加しサービスの質の向上のために他事業所との交換交流会を実施している。また、職員もそれぞれのネットワークを活用し、自身のレベルの向上ができるよう励んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際し、本人と家族がホームに遊びに来てもらうよう声かけしたり、こちらから面会に行ったりしている。入居後もしくは環境の変化に慣れない事もあり、家族の面会時間や来訪の頻度を調整してもらうよう家族にも協力を依頼している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員間で、利用者は人生の先輩という共通の認識があり、普段から昔話を聞いたり、古い歌を歌ってもらったり、おいしい漬物の作り方を教わったりしている。お互いをお願いしたり、感謝したりと共同の生活者として支えあう関係を作っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人ひとりが利用者の思いを受け止め、家族の希望も聞き取り、利用者本位の視点から全職員で検討している。自分の思いをうまく表現できない方には、日々の関わりの中でその方のしぐさや表情から思いをくみ取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や関係者の要望を介護計画に記載し、職員全体の意見やアイデアを反映しながら総合的な判断により介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	具体的なケアサービスは受け持ち担当者がアセスメントを作成し、その方に応じた介護計画を作成し、職員全体で毎月の評価会議で検討している。急激な変化や緊急を要する場合には即座にスタッフ内で話し合いをし、家族にも連絡報告して、随時介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月1回の温泉旅行・お花見・お祭り参加・家族との食事会等要望に応じ支援できるよう努めている。また、面会時の家族の宿泊、看取り時の宿泊等もできるよう用意している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	もともと法人内の病院をかかりつけ医とされている利用者も多いが、利用者や家族の希望する医療機関において、適切な医療が受けられるように支援している。法人以外では市立病院の泌尿器科や近くの眼科・婦人科等に受診されている方もいる。受診時には職員が付き添い家族には病状説明や報告をしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年度、在宅療養支援診療所と医療連携をしながら看取りを経験し、利用者や家族に満足していただいた。その経験を踏まえ、病態の変化がある毎に家族には情報を伝えている。家族の希望があれば、早めに医師を中心に関係者全員で方針を確認し看取りができる体制になっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念の共有をはかり、名前の呼び方や接遇等失礼にならないように尊厳を持った対応を努力している。ホーム便り等に掲載する写真なども家族に了解を取った上で使用している。個人情報保護については所定の場所に管理・保管されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自宅にいた頃いつも行っていた商店街に車でドライブ気分で行ったり、言葉として出せない方にはその方の思いをくみ取り散歩に出かけたり、柔軟に職員の勤務体制や業務内容を変更し、利用者の希望に添えるようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き取りながらなるべく希望に添うような献立にし、調理法もその方に合わせた食べやすい形態にしている。利用者のできることや清潔にも考慮しながら一緒に準備や食事後片付けを利用者と職員が一緒に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴ができ、利用者の希望の時間にいつでも入浴することができる。一人での入浴を嫌がられる方もおり、その時には仲の良い方と一緒にしてもらったりして一人ひとりの気持ちに合わせてしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の役割としては洗濯物干しやたたみ、掃除機かけ・床のモップ拭きなど本人の得意分野を職員と一緒にしている。また、塗り絵や折り紙・きり絵・唱歌・体操・大正琴等それぞれの趣味や興味に合わせて支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出や散歩は随時要望・必要時に臨機応変に対応している。また、ほぼ毎日午後から個別の外出援助の体制をとっており、買い物もできるようになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前、利用者が一人で外出され、地域の方の協力を得た経緯がある。家族等と話し合いを行い、不穏時のみ簡単に開閉できる鍵をかける場合はあるが、チャイムで玄関の開閉を知らせる工夫をしている。地域の方にも声かけや連絡等の協力依頼のお願いをしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いの下、年2回利用者と共に避難訓練を行っている。職員全員が災害対策マニュアル・緊急時の連絡体制・避難場所の確認はできているが、近隣の協力を得られるまでには至っていない。	○	運営推進会議でも地域の方に協力を呼びかけ、近隣の協力が得られるような取り組みを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	往診管理の定期検査による指示や情報に従い、水分・塩分・カロリー制限や肥満防止には十分気をつけ食事のバランスに努めている。個別に食事・水分の摂取状況を記録し、全職員が共有できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	病棟の2階部分改装しているが、開放感があり明るい空間となっている。フロアのいたるところには昔懐かしい足踏みミシンや家庭的な家具を配置し、季節の花を生けたり、飾り物を置き、家庭的な雰囲気としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の好みや馴染みの物を持ち込み、利用者が安心して過ごせる場所となるよう心がけている。居室には本人の作品である塗り絵や家族の写真が飾ってあり居心地良く過ごせるように工夫されている。</p>		